

井尻公民館だより

(令和3年3月1日発行)

<令和3年3月号>

(第204号)

<連絡・問い合わせ先>館長 窪田 道忠 ()

主事 相澤陸奥実 ()

蠟梅の一枝ひらく根津邸

野村可ね子



絵手紙愛好会

篠原勝利

木々の芽が膨らみ、春の足音がすぐそこに聞こえ始める時節となってきました、「三寒四温」という言葉があるとうり、暖かい日が数日続き、ようやく冬が終わったかなと思っていると、また寒さが戻ったりする、でも優しく穏やかな日差しが嬉しい季節です。

3月は、保育園、幼稚園、学校の卒業式、また退職等一つの節目で、区切りの月です、新しい春に希望を膨らませる月でもあり、またそう願うところです。

今は、コロナとの必死にの闘いです、長きの自粛で気持ちが緩みがちです、コロナに隙を見せないよう最善の注意をし過ぎましょう。

ワクチン接種も始まりましたが、まだまだ安心は出来ません、あの楽し日々だった日が戻るまで皆で気持ちを一にして頑張りましょう。

3月の行事予定

2月の公民館だよりでふれあい祭(文化展)の開催の有無について、お知らせしました、現状(2月17日)、緊急事態宣言の継続による自粛で感染が低くなって来ている状況です、当地域も長く落ち着いている様子です、又、催しに於ける内容と、広いホールであるため密になりにくいので、この様な事から結論とし、**コロナ感染対策**にも注意し**開催**することいたします。 **名称は“作品展”**とします、

皆さんには色々な趣味お持ちでしょう、その中での、形としての作品作りの趣味の方もおいでになり、今も活躍中と思います。

コロナ禍の中、自宅での過ごすことが多くなっていると思います、その中での作品も生まれて来ているのではないかと思います、有りましたらおねがいます。

又、以前の作で、気に入った、取って置きの作品も有りましたら大歓迎です。

詳しい内容については次ページとなります。

令和2年度 井尻公民館 「作品展」

次のような日程・内容で行いますので、大勢の方々の作品展への出品をお願いします、また鑑賞への参加もお待ちしております。

*期 間 令和3年 3月6日(土)～7日(日)

*場 所 公民館 2階 ホール

*時 間 両日とも 午前9時～午後4時まで

*展示作品募集

絵画・絵手紙・写真・書道・手芸・陶芸・版画・生け花
千切り絵・押し絵・さやか人形・俳句・川柳・短歌
他工作物

例年参加して頂いている井尻小学校の4年生、5年生、6年生の作品も今回も展示参加して頂く事となっております。

*展示品の搬入

3月5日(金) 午前9.00～午後3.00までに受付でチェックを受け2階ホールへ持参して下さい。

自分の作品には必ず名前を付けておいてください。

*展示品の搬出

3月7日(日) 午後4.00過ぎから

なお、搬入・搬出が困難な方は、館長・窪田()
主事・相澤()がお手伝いしますので、遠慮なく申し出て下さい。

3年前の作品展の様子です



公民館では生涯学習の場として開放をしています、多くの趣味のグループが活動されており、作品の出来前についても論議し合いレベル向上の糧に、又、講師を招き新たな技術の取得なども行っております。

公民館としての事業計画も予定もって活動も行っております。

今はコロナ禍の中で苦しいところですが、公民館は一部分の方々のみで活用だけではありません、地域の皆様全てに開放されており、場所の提供（和室、図書室大ホール、調理室）、など、学習の場、軽トレーニング場、ピアノの設置ありで、バンド練習もOK、ママ友のコミニティーの場、クッキング教室、等々、若い世代の方方にも気軽に使っていただけます。

今回の作品展を開催に当たり 3 蜜を避けて行っていきます、気分転換にもなると思いますのでお出かけください。

公民館 大掃除のお願い

次の通り大掃除を行いますので、ご協力お願い致します。

日時： 3月13日（土） 午前9時～

お願いする方々・・・公民館利用者団体 各1名以上

（書道・囲碁・太極拳・絵手紙・俳句・川柳・手芸・絵画・菊の会・和太鼓）

運営委員

(俳句)

(井尻公民館俳句愛好会)

2021/01/26

鉄塔の空の饒舌揚雲雀

(三柵 淳)

寒雀日照りの土を蹴って翔ち

(野村可ね子)

三寒や駒ヶ岳の風よぶ杜氏歌

(増田英仁)

老翁の杖にあご載せ四温かな

(三森美恵子)

海鳴りや岬を覆ふ寒水仙

(飯島和子)

遠富士や庭木に群れて寒雀

(小笠原一子)

いつまでも鳥の声あり日脚伸ぶ

(小林昂平)

降り続く四温の雨や秩父道

(飯島武志)

(川柳)

(井尻公民館川柳愛好会)

2021/01/22

川柳は和気靄靄でチクリ刺す

(久保 晃)

背伸びせず人の交わり和やかに

(広瀬 勝)

妻からのお疲れさんで家和み

(三井厚子)

遠い日の昭和のドラマ胸を打つ

(田辺たみ子)

帰省なく子らへ送りし和のお重

(古屋典子)

和解した仲良し夫婦すぐけんか

(雨宮江身子)

爛酒にほっこりの夜和む声

(中村廣一)

昭和史を伝え続けた語り部か

(関口正次)

一言で一気に和む場の空気

(飯島武志)



(短歌)

(古屋和子)

如月に剪定の枝片付ける

果樹栽培も年々きつし

日脚など日毎伸びたり庭隅の

水仙咲きてほのかに香る

